

それは聖地なのか

あるいは『聖地』なのか



都市計画コンサルタント協会 まちづくり技術交流部会関西

都市の聖地づくり研究会



この聖地つくったの誰やねん

何か人を引きつける場所に対し、聖地という言葉は意外と頻繁に使われている。ある時はうやうやしく、またある時は軽々しく。私たちが研究対象とする聖地はいわゆるパワースポットのものだけではなく、極めて俗っぽい売り文句としての「〇〇の聖地」も含んでいる。いわば世の中に氾濫する変幻自在な聖地の概念を丸ごと対象にする無茶な試みだが、「聖地」そのものではなく「聖地づくり」のプロセスに着目した時に、共通するセオリーのようなものを発見できるのではないかと考えた。

とは言え、聖地にまつわる疑問は尽きない。聖地とは人が集まる場所なのか、むしろ近寄りがたい場所なのか。歴史ある信仰の地であっても、その起源には必ず仕掛人がいたのではないか。聖地に通う信者と一般来訪者との間に明確な境界はあるのか。聖地が特定多数を集める手法は、地域のブランディングに応用できるのではないか。

おそらくその答えは机上には無く、実際に聖地を巡りながら開眼していくしかない。そして私たちは旅に出ることにした。様々な背景を持つ聖地を歩き、体験しながらその成り立ちを探る。聖地から聖地へと渡り歩くその様はまるで、悟りを求めて旅を続ける求道者。果たしてその旅の行方や如何に。

※この冊子は、都市計画コンサルタント協会・まちづくり技術交流部会関西において、2014年10月から2018年7月までの約4年間に取り組んだ「都市の聖地づくり研究会」の活動成果を取りまとめたものです。

※左ページのロゴは「悟りを求めて旅を続ける求道者」をイメージしてデザインしたもので、研究会の対外的な情報発信の際に使用しています。

『聖地』とは	5
--------------	---

聖地をめぐる



聖地巡礼の旅 其ノ壱 串カツの聖地・新世界(大阪市)	
一つの会社がつくりだした聖地の成功例	6



聖地巡礼の旅 其ノ貳 でんぼの神と占いの聖地・石切(東大阪市)	
「あやかり」うずまくディープな聖地	7



聖地巡礼の旅 其ノ参 スパイスカレーの聖地・裏谷四～北浜(大阪市)	
「リスペクト」によるゆるやかな序列の形成	8



聖地巡礼の旅 其ノ肆 高校野球の聖地・阪神甲子園球場(西宮市)	
みんなで創り出された聖地の代名詞	9



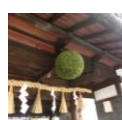
聖地巡礼の旅 其ノ伍 だんじり祭りの聖地・岸和田(大阪府)	
たゆまぬイノベーションにより伝統をさらに進化	10



聖地巡礼の旅 其ノ陸 焼肉の聖地・鶴橋(大阪市)	
五感を容赦なく刺激する圧倒的な本場感	11



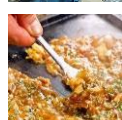
聖地巡礼の旅 其ノ漆 萌えカルチャーの聖地・日本橋(大阪府)	
自らが「オタク」であることを狂喜するまち	12



聖地巡礼の旅 其ノ捌 日本酒の聖地・灘五郷(神戸市)	
「宮水」による匠の集積を訪れる楽しみ	13



聖地巡礼の旅 其ノ玖 その日暮らしの聖地・釜ヶ崎、飛田新地(大阪市)	
取り残された「陰 ^{かげ} 」の聖地	14



聖地巡礼の旅 其ノ拾 もんじゃ焼の聖地・月島(東京都中央区)	
子供のおやつが「街のブランド食」に進化	15

聖地をつくる

都市の『聖地』づくり7つの ^{いろは} 極意	16
『聖地』をつくろう！YES/NOチャート	18
みなさまと共に旅を続ける「都市の聖地づくり研究会」	19

『聖地』とは

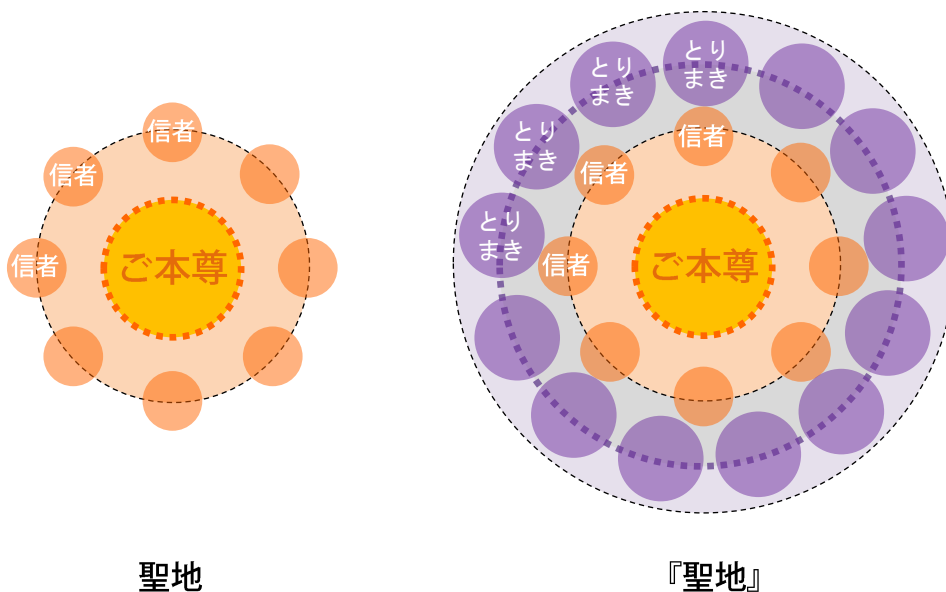
私たちが研究会で扱ってきた聖地を定義するのは実は難しい。聖地に共通する概念は何なのか？

いくつかの聖地を巡って共通点を見つけたと思っても、次の聖地に行くと、また別の概念が顔を出す。そんな研究会の活動を通して、私たちが到達した聖地についての理解をここに記しておく。

- 聖地とは、一般に特定の宗教や信仰と結びついた神聖な場所で、開祖にゆかりがある、神話の舞台となった、などの特別な意味を持つ「場所」のことをいう。聖地はリスペクトの対象となる「ご本尊」と、それをリスペクトする「信者」、また両者を結びつける物語によって成立している「場所」である。
- 聖地の物語に新しい意味が加わり拡張されることにより、新たに惹きつけられた人々が「ご本尊」と「信者」を「とりまき」、新たなアクティビティが発生している「場所」を、私たちは『聖地』と呼ぶことにしよう。
- 「ご本尊」「信者」「とりまき」の存在によって、地域の魅力と活力を高めている「場所」それが『聖地』である。

『聖地』を構成する要素

ご本尊	地域固有の歴史や文化の蓄積と、それらを育んできた風土や空間によって生み出される他地域にはない唯一無二の特徴的なひと、もの、ことで物語を宿すもの
信者	ピュアな信仰心を持って「ご本尊」を尊び、志し、守る人々
とりまき	拡張された物語を第三者的に楽しみ、様々なアクティビティをもたらす人々





一つの会社がつくりだした聖地の成功例

“B級グルメ”が地域活性化において一役買うアイテムとして取り上げられて久しいが、“天下の台所・大阪”は、言い換えれば“B級グルメの台所”で、その代表格が「串カツ」である。

大阪では古くから「串カツ」といえば新世界であったが、近年は観光客も巻き込んで、串カツの聖地として、国内外から人が押し寄せている。多くの大阪人が知る一昔前の新世界とは打って変わった雰囲気となっている。ここでは、食の聖地の先駆的存在である新世界にスポットをあててみる。

“大大阪時代”を今も語り継ぐ・新世界の歴史

新世界とは、大阪市は浪速区、おおむね天王寺動物園と恵比須町駅～動物園前駅に挟まれた一帯のエリアを指す。かつては畑や荒地だったが、明治36年に開催された第5回内国勧業博覧会会場の一部として、「新世界」が誕生した。これが“大大阪時代”の到来のきっかけとなった。

博覧会後「大阪の新名所」とすべく、パリの街路を模した円形広場を中心とした放射道路、エッフェル塔を模した通天閣が整備され、現在のまちなみの原型がつくられた。同時に、ルナパーク（遊園地）が建設され、芝居小屋や飲食店等が集まり一大歓楽街となった。

その後ルナパークの閉園、阿倍野界隈の開発等の影響により、活気が衰え始め、あいりん地区が近接する立地、大阪万博開催を期とした労働者の集積という時代背景等により「労働者の盛り場」のイメージが濃くなった。

平成の時代になると、昭和の雰囲気、雑多な雰囲気などが「レトロ」と評され、連続ドラマ等の舞台にもなり、大阪を代表する観光地として復活した。



Point 聖地としての3つのポテンシャル

- ★ 安価な食も好まれる労働者のまち
- ★ 盛りだくさんの観光資源
- ★ 抜群の好立地

聖地の所以① ご本尊となる「だるま」の誕生と伝説

「労働者の盛り場」となっていた新世界に串カツの1店舗が開店する。この店こそ今や大阪のあちこちで行列をなす「だるま」である。「2度づけ禁止」のルールも「だるま」発祥といわれている。

“安い・早い・旨い”の3点揃った串カツは、労働者の生活スタイルや大阪人の気質にも合い、大阪を代表する食べ物として愛されてきた。その信者の1人である浪速のロッキー・赤井英和は、閉店の危機には、自身の後輩に店を継がせたという伝説の逸話もある。

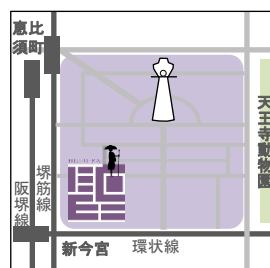
聖地の所以② 一の会社が仕掛けた串カツのテーマパーク化

新世界の観光地化に目をつけた企業があった。その企業は、画一化された店舗ではなく、各々違った個性を持つ串カツ店を複数この地に集積させてオープンさせた。まちに多様な店舗が並ぶことで、串カツをメインとした“食のテーマパーク”ともいうべき街並みへと進化し、「串カツといえは新世界」という世論が形成されたのである。また、観光客ウケのよい豊富なメニューやいちげんさんにも分かりやすいルール解説など、門戸を大きく広げたことも功を奏し、ついに聖地化を成し遂げたのである。

Point 聖地での心得

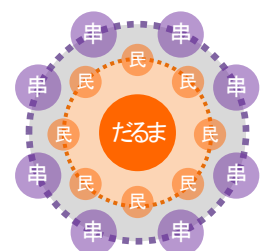
- ★ 1店舗での満腹禁止！
串カツ漬けの食べ歩きをして、味わい尽くせ！
- ★ 絶対に二度づけはアカン！
本場の「二度づけ禁止」ルールを体験してみよ！
- ★ 大阪レトロも味わってや！
疲れたら、昔ながらの純喫茶でひと休みして、大阪レトロを感じよ！

《聖地訪問ガイド》



Check! 『聖地』の構成要素

- ご本尊 : ● 串カツ界の元祖・だるま
信者 : ● 串カツを主食とする民、
界隈の労働者などの人々
とりまき : ● 2000年代後半から増加した
周辺の串カツ店舗



まだまだあるで こんな聖地

宇治は日本有数のお茶の聖地。その宇治でよく知られている妖怪が「橋姫」。とても嫉妬深く、名前の通り橋に現れる。他の都市でも同様の言い伝えがあるので、一人で橋を渡る時は十分にご注意を。（大津市・松本猛秀）



「あやかり」うずまくディープな聖地

「石切さん」と親しまれる石切劔箭神社は、神武天皇の時代に元宮が創建されたといわれる歴史深い神社である。ご神体である劔が石をも貫くということから「でんぼ（腫れ物）の神」として信仰され、老若男女がお百度を踏みに訪れる、まさに正統派の聖地と言えそうだ。だが、この聖地にはもうひとつの顔がある。石切駅から続く下町情緒あふれる参道商店街にひしめく「薬」「占」の文字。特に占い店の集積率は他に類を見ない程であり、「占いの聖地」とも呼ばれているのだ。五月晴れの下、爽やかにスタートした巡礼の旅。その先には想像以上に濃い世界が待っていて、私たちはその深い渦へと引きこまれることとなった。

「あやかり」が「あやかり」を呼ぶ、深化する聖地

①でんぼの神に人々があやかる → ②漢方薬店が聖地にあやかる → ③占い店が聖地にあやかる ……→



石切を最初に聖地にしたのは、「でんぼの神」にあやかりたい人々。大正3年の大気鉄道の開通を機に多くの参拝客が訪れるようになり、癌封じの聖地が誕生。



石切は江戸時代から続く漢方薬の製粉業が盛んなまちでもある。病に悩む人々を対象に薬店が増加したのは自然な流れか。当時は薬の聖地だったかもしれない。



科学薬品の進化で漢方薬店が減少するが、易占い店は増加。今では、手相、四柱推命、家相、タロット…石切に来れば目当ての占いに出会える、まさに占いの聖地。



みんなでぐるぐる、カジュアルな信仰スタイル

人知れずひっそりと…というイメージのあるお百度詣りだが、石切では親子や友人同士で、ときに会話も交えながら行われている。お百度紐やロッカーなどもサポートも充実して信仰を身近に感じさせてくれ、ならば私も…と思わず一歩踏み出したくなる。



ミスマッチが調味料、ごった煮の商店街

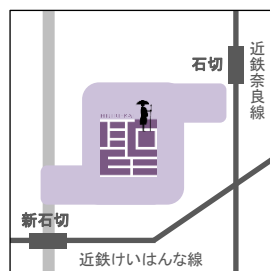
神聖な参道には一見相応しくない、主張の激しい看板や店構えの占い店。手相も見てくれる衣料品店や地域の人向けの青果店も混在。夕方には占い店の横を野菜を手に家路を急ぐ人の姿…。違和感を感じる度、同時にじわじわとこのまちに惹かれていく自分に気づく。



あらゆる“悩み”“不安”を受け止めるまち

いつの世にも存在する悩みや不安へ、あらゆる角度からアプローチする奥深い聖地・石切は、聖地への「あやかり」が、物語を損なわずに拡大するものである場合、2層目を形成し相乗的にまちの個性を高められるのだと教えてくれた。そういえば、新石切駅側の西参道商店街には、住宅地に占い店が点在し独特の空気が漂っていたが、まだ余地があるように見えた。そのうち3層目の聖地が誕生するかもしれない…。

《聖地訪問ガイド》



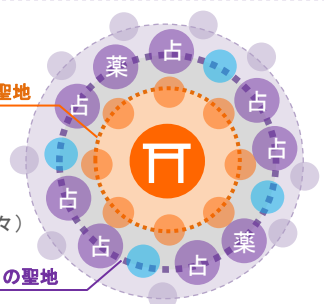
Check!

『聖地』の構成要素

- ご本尊 : ●石切劔箭神社
- 信者 : ●占い店の集積
- とりまき : ●参拝者（病に悩む人々）
- 占い客（悩みを抱える人々）
- 占い店や漢方薬店
- 土産店、飲食店

オリジナル聖地

2層目の聖地



まだまだあるで こんな聖地

姫路城は国内最初の世界遺産の一つであり、城マニアの聖地。その城内には、血屋敷で有名なお菊の幽霊が虫の姿を借りてこの世に帰ってきた妖怪「お菊虫」が大量発生する井戸がある。虫取り網を用意して下さい。捕まえますよ。（大津市・松本猛秀）



「リスペクト」によるゆるやかな序列の形成

隙間こそ王道

近年「スパイスカレーの聖地」としてメディアでよく取り上げられているエリアがある。街の中にグリラのように潜みながら勢力を広げ、ジワジワと増殖する無数のスパイスカレー店。

その多くは、雑居ビルの通路の奥、地下や2階など街の「隙間」物件で営業している。彼らの世界ではメインストリートの路面に店を出すのが反則であるかのように。

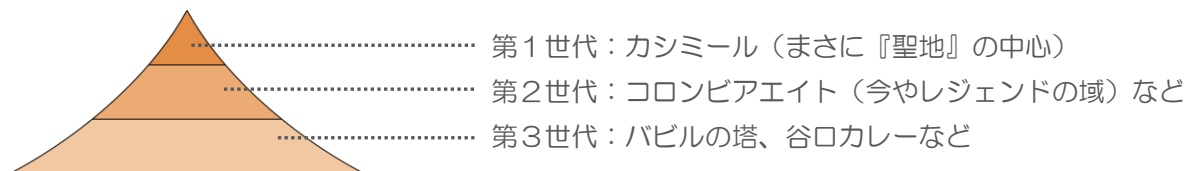
もちろん家賃の安さが理由の一つだが、そもそも彼らは漠然と何か食べたいという客を相手にしていない。「何が何でもスパイスカレー」という客（つまり熱心な「信者」）なら、地の果ての店でも探し出すだろう。彼らは目指す目的地が「隙間」であることを厭うどころか、むしろ誇りにさえ思うかもしれない。



自然発生的に進行する末広がり現象

スパイスカレー店群は一見とりとめもなく散らばっているようだが、実はゆるやかな序列でつながっている。そこには短いながらも濃い歴史ストーリーがある。すべての始まりは、一人のカリスマシェフ（第1世代）。そのすごさに気づいて後を追う者たち（第2世代）が現れ、それぞれに野心を持って独自路線で突き進み、やがて彼ら自身もスパイスカレー界の震源地と言われるようになる。

そして今、さらに新たな挑戦者（第3世代）たちが続々と名乗りを上げている。彼らの間では仲間意識によるコミュニティが育ち、共同でカレーイベントを開催するなど単体のカレー店を越えた活動も展開している。その中で当然そのコミュニティから距離を置くアウトローも存在するが、アウトローどうしがまた連携するという現象もみられるなど、『聖地』の行方はもはや誰も予測できない末広がり状態になっている。



リスペクトでつながる

一説によると、東京の有名カレー店は「インドカレー」などジャンルが明快なものが多いのに対し、大阪では既成のジャンルに分類できない独自性の高いカレーが多いとのこと。確かに、大阪のスパイスカレーの店主（大半がオーナーシェフ）は変わり者ばかり。「カレー」の概念にとらわれず、自由に、音楽と同じ感覚でカレーを作る。様々なスパイスを調合して、トータルでどんな響きを作るかを追求する。

師弟関係とはまた違う「リスペクト」によるゆるやかな序列の形成は、彼らの多くが自由な表現を求め、音楽やアートのような感覚で自分だけのカレーを追求していることと無関係ではないだろう。

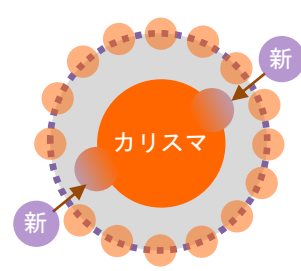
《聖地訪問ガイド》



Check!

『聖地』の構成要素

- ご本尊 : ●カリスマシェフの面々とそれにくつぎ者たちが営むスパイスカレー店の集積
- 信者 : ●全国のカレーマニア
- とりまき : ●聖地でのチャレンジに身を投じるカレーシェフ（いずれご本尊の一角に成長）



まだまだあるで こんな聖地

裏谷四をはじめ大阪は食の聖地が多く、食い倒れの街ともいわれる。妖怪の中で大食いといえば、髪に隠れた後頭部にもうひとつの口がある「二口女」。人の目を盗んで、一度に大量の食事を平らげる。合コンには呼ばないように。（大津市・松本猛秀）



聖地巡礼の旅 其ノ肆

高校野球の聖地・阪神甲子園球場（西宮市）

ろくにほへと

みんなで創り出された聖地の代名詞

甲子園は「戦前からの野球熱」、「阪神電鉄の沿線開発」、「武庫川の洪水」などが組み合わさって創り出され、長い年月をかけて醸成され現在に至っている。

今日では野球ファンだけでなく、日本国民の誰もが知っていると言っても過言ではない“高校野球の聖地”であり、高校野球のみならず、ダンス甲子園、まんが甲子園など〇〇甲子園と銘打った高校生の全国大会が運動系、文科系を問わず、たくさん開催されている。〇〇甲子園ときくと、高校生を対象としたイベントであることが認知できるほど「甲子園」という言葉は定着し、シンボル化されている。

その本家本元が最も盛り上がりを見せる“夏の甲子園決勝戦”の日に訪れ、その熱気やそれを取り巻く要素などについてレポートする。

第97回全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園）

決勝戦は、仙台育英 VS 東海大相模。両校ともに甲子園の常連で伝統の応援が繰り広げられた。東海大相模が10対6で勝利し、夏2回目の全国制覇を成し遂げたが、8回裏まで6対6の同点の白熱した試合であった。

一日に複数の試合が組まれるのとは異なり、決勝戦はまさにこの一戦のみ。両校のためにたっぷり“聖地の時間”が用意されているといった感じで、各選手のプレーに対する観客からの拍手もここまで勝ち抜いてきたことに対する敬意と賞賛が込められているようであった。なお、両校のエースはその年のプロ野球ドラフト会議で指名を受け、ともにプロの道に進んでいる。



甲子園歴史館・野球塔

甲子園球場の内部には歴史館があり、“聖地への誘い”に始まり、甲子園球場ができるまでの経緯や高校野球の歴史が詳しく記されている。また、甲子園を本拠地とする阪神タイガースの展示コーナーもある。

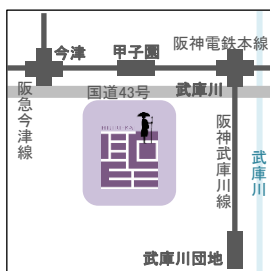
バックスクリーン裏の球場の外に、甲子園球場リニューアル完了を契機とした野球塔が建立されている。形状は1934年に建てられた初代野球塔を受け継いでおり、ここにも長い年月をかけて創り上げられてきたことを窺うことができる。歴代優勝校の名が刻まれた銘板が設置されている。

すさのお 素盞鳴神社

甲子園球場のすぐとなりには鳥居を構える神社。当然ではあるが、絵馬はもちろん甲子園出場祈念や活躍などであり、野球塚の石碑を取り囲んで奉納されている。また、野球塚の前方にはホームベース型の石舗装が施されている。

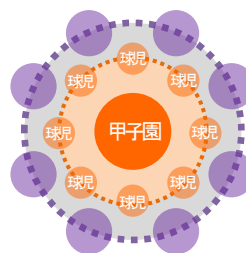


《聖地訪問ガイド》



Check! 『聖地』の構成要素

ご本尊 : ● 甲子園球場
信者 : ● 高校球児
とりまき : ● 朝日、毎日などの新聞社・放送局、グッズ販売店、素盞鳴神社、プロ野球スカウト



まだまだあるで こんな聖地

百人一首の全国大会が開かれる近江神宮は、かるたの聖地。その近くの寺院には鉄の牙をもつ妖怪「鉄鼠」が現れる。八万四千匹の鼠を引き連れ、寺の経典などをかたつばしから食い荒らす。大事な書類はバックアップを忘れずに。（大津市・松本猛秀）



聖地巡礼の旅 其ノ伍

だんじり祭りの聖地・岸和田（大阪府）

□□□にほへと

たゆまぬイノベーションにより伝統をさらに進化

駅を降りればだんじりのまち

聖地巡礼はだんじり祭り本番前の試験曳きの日におこなった。試験曳きが開始される一時間前に南海岸和田駅を降りれば、だんじり祭りの準備が整えられ、だんじりのパーツを環境デザインに再利用した人止め柵が迎えてくれる。美しいかどうかはともかく、物語がある。朝ドラ「カーネーション」の舞台となった駅前商店街など、祭り前のワクワク感に包まれる街を散策し、「やりまわし」見学ポイントへ向かう。

組織と役割分担が完成されている

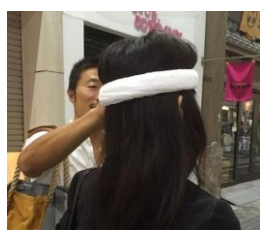
祭りの神髄は、狭い辻を高速で曲り走り抜ける「やりまわし」。4トほどもある木製のだんじりをうまくあやつるには、それぞれ役割を持つだんじり関係者が息を合わせる必要がある。荒くれたイメージのある祭りではあるが、それを支えるのは徹底した組織化運営と、各世代を網羅した育成システムのなせる業なのだろう。例えば、未来のだんじりを担う子供たちへお母さんからのエリート教育。繊細にだんじりをコントロールする大工方、前挺子、後挺子も先輩から後輩へと技術が受け継がれていく。だんじりの後ろを本気で走る女子たちも、将来子供たちにだんじり教育をする先生になるのだろう。「破損交渉責任者」なる、何やら重要なポストもある。



だんじり仕様の街は行政の努力も大きく貢献している

現在のように高速の「やりまわし」が可能となったのは、道路の舗装化以降なので、300年以上続く祭りの形が変化しだしたのは最近の話。五穀豊穡を願うために始まったものではあるが、今やどれだけカッコよく「やりまわし」をキメるかを競いあっている感じがする。だんじり自体のチューンナップ（足回りの改良）も重要となっているが、「やりまわし」に配慮した段差の少ないマンホールや、だんじりが通るために道路に中央分離帯を設置しないこと、だんじりの似合う町並みへの努力など、行政によるだんじり仕様のまちづくりも、だんじり界をリードし続けるためには欠かせない。

大阪を中心にだんじり祭りはたくさんあるが、だんじり祭りと言えば岸和田、岸和田と言えばだんじりと言われるようになったのは、伝統のうえにあぐらをかかない、街をあげたたゆまぬイノベーションがあるためだろう。



鉢巻をまいてみたい

法被、地下足袋、髪型などファッション性にもこだわりがあり、神事であった祭りがフェスティバルへと変貌していくこともイノベーションによる伝統の進化なのか。

だんじりの魅力に取りつかれたメンバーが「鉢巻をまきたい」といいだし、信者になりつつある姿を見れたのも、ファッション性が優れていることを物語っている。

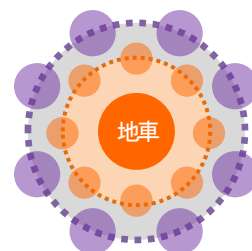
《聖地訪問ガイド》



Check!

『聖地』の構成要素

- ご本尊 : ●だんじり祭り
- 信者 : ●だんじり関係者
周辺のだんじり祭り
- とりまき : ●ギャラリーたち
グッズ関連店



まだまだあるで こんな聖地

四国八十八カ所は聖地巡礼の元祖。その66番札所雲辺寺がある三好市には「子泣き爺」の発祥地がある。一般には良い妖怪のイメージだが、鳴き声につられて子供を抱き上げると体重が重くなり人を押し潰してしまう。偽善者にはならないように。（大津市・松本猛秀）



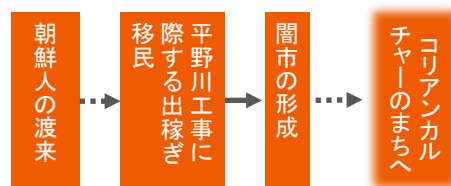
五感を容赦なく刺激する圧倒的な本場感

夕刻、鶴橋駅で電車のドアが開くとたちまち車内に充満する食欲をそそる匂い。鶴橋は最大級の猥雑感とともに焼肉店がひしめくエリアとして名を馳せている。大阪周辺の人間が共有する、「焼肉行こう」と「鶴橋の焼肉行こう」の明確な意味の違い。無粋ではあるが、後者に込められた暗黙のニュアンスをあえて表現すると、「（満を持して）（本場）鶴橋の焼肉行こう」などとなるのであろうか。五感を容赦なく刺激する圧倒的な“本場感”。人々を引きつけて離さないこの聖地を支える構造とはいかなるものであろうか。

聖地の逸話：逸話背景を裏付けるコリアンカルチャーの歴史

聖地・鶴橋の背景を語る上で切り離すことのできないのは、コリアタウンとしての歴史である。この地と朝鮮半島との関係は古く、古代・仁徳天皇の時代には多くの渡来人がこの地に降り立っている。大正期になると、平野川の付け替え工事が行われ、済州島より多数の朝鮮民族が出稼ぎにやって来て、この地に留まった。さらに戦時中に現在の商店街の原形である闇市を展開することになるのはこの、セカンド・カマーの在日韓国人や朝鮮人である。

そして、現在においても鶴橋周辺は在日韓国人・朝鮮人の方の集住地となっており、世代が変わっても濃いコリアンカルチャーを提供し続けているのがこのまちのアイデンティティである。



焼肉屋集積までの変遷

- 焼肉の起り**
日本における焼肉は、戦後の食糧難の時期、この闇市で肉の扱いに長けていた朝鮮人が、日本人が捨てていた内臓（ホルモン）を提供し出したのが起源とされる。
- 老舗焼肉屋の露出**
メディアへの露出などにより、老舗焼肉屋が注目を集める。これら老舗店は、実は駅近傍に集積している訳ではない。
- 新規店（とりまき）の集積形成**
ある時期、焼肉屋が駅前に急増した。老舗店が「鶴橋の焼肉」として世に出始めたことで、「鶴橋」＋「焼肉」＝「儲かる」を知った新規参入事業者（又は他の業態であった地域の事業者）が立地の良い駅前で「焼肉屋」を始めだしたのであろう。ただ、これら「とりまき」でさえ侮れないのが、鶴橋の「聖地」としての奥深さである。



老舗の名店は駅から少し離れてひっそりと



駅前のとりまき集積（新規店舗にも名店はある）

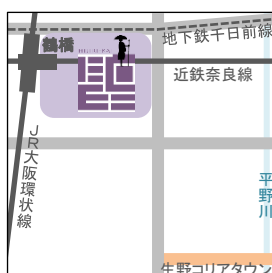


眼から鼻孔から耳から“本場感”を演出

五感に訴えかけるまち一体のプロモーション

鶴橋の“本場感”を支える要素は歴史だけではない。前述した駅のホームまで満たす圧倒的な「匂い」に加え、汨濫するハングルの広告物、飛び交う韓国語。これらが視覚・嗅覚・聴覚を刺激し、“本場感”を加速させることで、客の満足を引き上げる。まさに、「とりまき」も含めたまち一体のプロモーションである。

《聖地訪問ガイド》

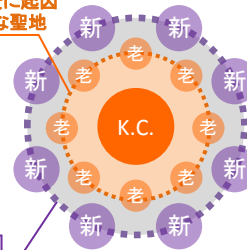


Check! 『聖地』の構成要素

- ご本尊 : ●コリアンカルチャー
信者 : ●老舗焼肉屋
とりまき : ●新規焼肉屋

歴史的背景に起因するビュナ聖地

商業的背景に起因する『聖地』



まだまだあるで こんな聖地

若狭のレインボーライン山頂公園は恋人の聖地の一つ。その麓には、不老不死になるといわれる人魚の肉をうっかり食たべた娘がいた。皆が死に、たくさんの悲しみに暮れたのち、比丘尼となり800年後に死んだ。長生きは、ほどほどに。（大津市・松本猛秀）



聖地巡礼の旅 其ノ漆

萌えカルチャーの聖地・日本橋（大阪府）

自らが「オタク」であることを狂喜するまち

一度は訪れてみたいオタクが集まるまち

若者やカップルでにぎわう難波の繁華街（なんばシティ）の難波中2交差点より東方面へ続く、なんさん通りから「萌えカルチャーの聖地・日本橋」は始まる。なんさん通りの両サイドには家電量販店などいわゆる昔ながらの「電気街」としての顔を垣間見ることができる。なんさん通りをしばらく進むと日本橋を代表する「オタロード」「日本橋筋商店街」がある。これらの通り沿いには、マニア・オタク向けのパソコン等のパーツショップ、同人誌、コスプレ、フィギュア等の店が軒を並べている。特に、オタロードとその周辺には多数の「メイド喫茶」が出店している。また、それらの店舗を目指して昼夜を問わず各地多くの人でにぎわっており、最近では外国人観光客の姿も多く見受けられる。このように、大阪を代表する観光スポットにもなっている。



街がもともと持っていた聖地としてのポテンシャル

いつの時代でも、他の地域にはない人を引き寄せる魅力が存在する。

【江戸時代】 ・宿場町（スラム街）	【明治時代】 ・古着屋の町 ・掘り出し物の町	【大正時代】 ・古書店街	【昭和時代】 ・電気街（ラジオ、無線機、家電）	【平成時代】 ・オタクの街（パソコン、アニメ ほか）
----------------------	------------------------------	-----------------	----------------------------	-------------------------------

男女問わず、大人たちを童心に戻す魅力がそこにはある

模型・プラモデル・人形・パソコン・ソフト・オーディオ・アニメキャラクター・トレカ（トレーディングカード）、フィギュアなど、誰もが一度は興味を持ったであろう商品が各店舗に所狭しと並んでいる。そこには、お手頃な価格の商品から数万円（場合によっては数十万、100万円を超えるものもあり）に及ぶものもある。しかし、いわゆる「オタク」から連想される男性客に限らない層で賑わいを見せている。このように、大人たちを童心に戻すような、非日常的な刺激を体感することができ、気が付くとそこにいる誰もが笑顔になれるまちである。



本当の自分をさらけ出すことが許される「メイドカフェ」

現代の日本橋を代表する「メイドカフェ」。そこでは、外界とは完全に隔離された独特の空間が広がっている。その空間は、店舗の設えだけでなく、プロ意識が高い店員（メイドさん）とそこに通う本気のご主人様によって形成されている。一見敷居が高いように感じられるが、一旦入店してみると不思議と居心地は悪くない。提供されるメニューは一般的なカフェと変わらないが、そこにはオプションが存在する。このオプションが重要であり、これなしでは日本橋の聖地を体感したとは言えないのではないだろうか。このオプションには不思議な力があり、自らの殻を破り本当の自分を思う存分さらけ出すことができるはずである。

《聖地訪問ガイド》



Check!

『聖地』の構成要素

- ご本尊 : ● オタク文化
- 信者 : ● コアなオタク (アニメオタク、アイドルオタクなど)
- とりまき : ● でんでんタウン協栄会 その他店舗



まだまだあるで こんな聖地

飛騨市は、旬なアニメ「君の名は」の聖地の一つ。その山奥には、人間の心を見透かす妖怪「覚」（さと）が住んでいる。心の隙をついて人を捕食する肉食性なので、邪なことは考えないように。（大津市・松本猛秀）



聖地巡礼の旅 其ノ捌

日本酒の聖地・灘五郷（神戸市）

い□□□に□□へ□□

「宮水」による匠の集積を訪れる楽しみ

灘五郷とは、西宮市今津から神戸市灘区に至る沿岸部に位置する約12kmの地域をいい、今津郷、西宮郷、魚崎郷、御影郷、西郷の五つの郷を名称をまとめて、灘五郷と呼ばれるようになった地域で、日本を代表する「銘酒のふるさと」である。

良質で豊富な「宮水」という最も重要な原材料を有し、海上輸送に有利な海岸部に酒造場を設けることができたことから、日本酒づくりの匠が集まり、生産地としての酒造業の集積した地域で、本来の姿は、生産現場である。

それが、阪神淡路大震災と海外における日本食ブームを転換点に、市民や観光客が訪れる日本酒の聖地として変貌を遂げた。

①19世紀に酒蔵が集積し、日本酒の有数の生産地に発展

関西の酒造業は、伏見で栄え、伊丹での酒造が盛んとなり、その後、灘の生産が盛んになった。19世紀には酒蔵が約250軒に達し、ブランド力のある日本酒の生産地として有名になる。

②日本酒消費量の減退と阪神淡路大震災による被災

消費者の嗜好が多様化するなど日本酒の消費量が低迷する中で、1995年の阪神淡路大震災が発生し、生産設備が被災し、経営が厳しい状況となる。

③酒蔵の再建と蔵の開放

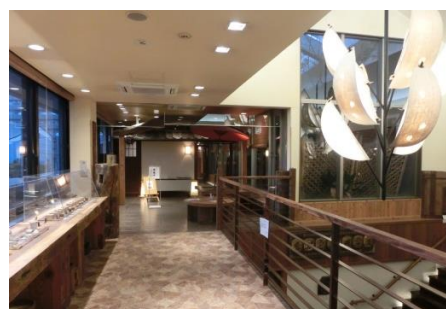
酒蔵は、生産施設の再建にとどまらず、伝統的な景観に配慮した建築物、生産工程を見せる博物館、日本酒や地場産品を販売するショップ、さらに、日本酒を楽しく飲み、食事ができるレストランと魅力的な蔵の開放が始まった。

蔵をリニューアルしたホールが整備されるなど地域文化が醸成される場としても地域に根ざした施設にもなっている。

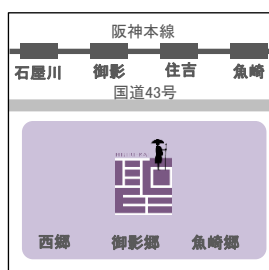
④日本食ブームとよる観光振興

蔵の開放により行政等による観光案内、灘五郷を舞台にしたイベントが継続して実施されるようになり、国内の観光客が多く訪れるようになった。また、日本食ブームにより外国人も訪れるようになったことで、日本酒の聖地化が成し遂げられた。

灘五郷は、観光客が訪れる日本酒の聖地として認知されるところであるが、古くから今も変わらず、蔵元（酒造メーカー）が灘五郷に蔵を持ちたいとの強い思いがあり、地域ブランド力を有する「蔵元の聖地」というのが、本質であると言える。



《聖地訪問ガイド》



Check!

『聖地』の構成要素

- ご本尊 : ●宮水（日本酒の原材料で最も重要な要素）
- 信者 : ●蔵元（日本酒の生産者）
- とりまき : ●周辺の土産店（ごく少数）



まだまだあるで こんな聖地

伏見も月桂冠や黄桜などの酒蔵の多いお酒の聖地。そんな京で大暴れていたのが三大妖怪の酒呑童子。源頼光らと仲良く酒宴をしていたのに、最後は毒酒を盛られ寝首を掻かれ成敗された。お酒を呑むときは、親しい人でも油断しないように。（大津市・松本猛秀）



その日暮らしの聖地・釜ヶ崎、飛田新地（大阪市）

取り残された「^{かげ}陰」の聖地

JR新今宮駅の目の前には、「あいりん公共職業安定所」があり、日雇い労働者や路上生活者がその日の職を求めて訪れている。職安を中心とする四方800mは「釜ヶ崎・あいりん」と呼ばれ、不定住者のための簡易宿や保証人なしの賃貸マンションなど日雇い労働者のために生活するための施設が集積している。職安の無機質な建物や彼らが醸し出す独特のオーラは、部外者を寄せ付けない雰囲気がある。また、阿倍野再開発の西側には、大正時代からの遊郭の雰囲気と仕組みを残した料亭街「飛田新地」がある。どちらも今の日本から取り残された陰の聖地といえる。

【釜ヶ崎】

①明治半ば、「釜ヶ崎」の原型が形成

現在の日本橋付近にあった大阪最大のスラム街（長町スラム）が、明治36年の内国勧業博覧会（新世界）の開催に関連して取り壊され、スラムの木賃宿がこの地域に流入し、原型が出来上がる。

②「釜ヶ崎」のまちの拡大

明治から昭和初期に経済の中心地“大阪”に人口が流入し、まちが拡大、生活困窮者が集中した。

③全国から単身不定住者が集中→求職・生活拠点「その日暮らしのまち」へ

全国からの単身不定住者の増加により、あいりん労働公共職業安定所など公的施設と簡易宿や労働者向けの露店等が集積している。

④「釜ヶ崎」インバウンド効果!?

近年、都心部から近く安い簡易宿に泊まる外国人観光客が増加している。



【飛田新地】

①明治の大火で難波遊郭が現在の場所に移転

明治終わりのミナミの大火で難波遊郭が全焼し、代替地として現在の場所（阿倍野墓地の北西の低地）に移転した。

②大正から昭和にかけて遊郭を形成

大正時代から昭和初期には200件を数え、戦災も免れた唯一の遊郭となっている。

③売春防止法施行以後、料亭街として営業中

戦後の売春防止法施行後は、料亭街として営業されており、大正時代からの街なみ、接客形式、雰囲気を残している。



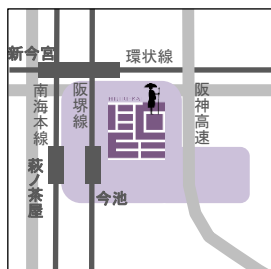
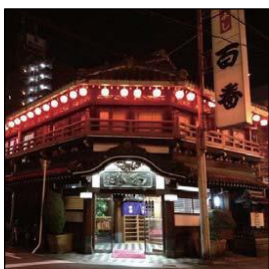
日雇い労働者・路上生活者にとって最後の砦

あいりん・釜ヶ崎は、職業安定所を中心に日雇い労働者等の生活感が溢れ出ており、部外者に強い緊張感を与えられる。そこに住む日雇い労働者や路上生活者には居心地がよい場所なのかもしれない。

飛田新地は、興味本位の男性を中心に来訪しており、雰囲気とサービスを享受されている。詳細は差し控えるが、興味があれば、一度体験されてはどうだろうか。ただし、女人禁制なのであしからず。

来訪者は口コミと興味・本能で訪れる（女人禁制）

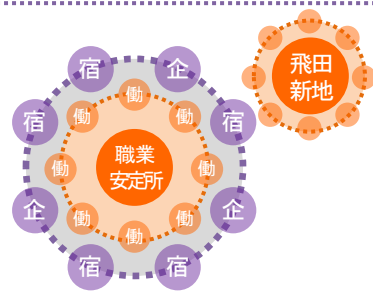
《聖地訪問ガイド》



Check!

『聖地』の構成要素

ご本尊 : ●職業安定所
信者 : ●労働者
とりまき : ●簡易宿泊所
労働力が必要な企業



まだまだあるで こんな聖地

繊維の街でもある倉敷市児島は、ジーンズの聖地。そんな倉敷周辺には妖怪「ぬらりひょん」がいる。妖怪の総大将といわれるが、人をからかったり、勝手に家に上がり、家主のようにお茶を飲んだりする程度。上司の方がよっぽどタチが悪い。（大津市・松本猛秀）



聖地巡礼の旅 其ノ拾

もんじゃ焼の聖地・月島（東京都中央区）

子供のおやつが「街のブランド食」に進化

「もんじゃ焼」とは、戦後の東京を中心とした駄菓子屋で子供たちのおやつとして親しまれてきたもので、鉄板に水に溶いたうどん粉で文字を書いて食べた「文字焼き」が転化したのが呼称の由来と言われている。

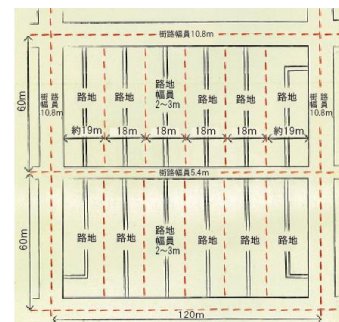
当初は具材がほとんど無いシンプルなものであったが、キャベツやするめイカなどを入れるようになり、徐々に具沢山の内容に進化した。また、時代が進むにつれて駄菓子屋の数が減ると、もんじゃ専門店や好み焼屋、居酒屋で提供されるようになり、現在では子供のおやつから大人の酒の供として全国的に普及した。

こうした何処にでもある庶民料理だが、東京都中央区の月島ではメインストリートとなる西仲通り沿道約500mを中心に70店舗以上の「もんじゃ店」が集積する「もんじゃの街・月島」としてブランド化している。そこには下町情緒が漂う月島の街の成り立ちも大きく作用していると考えられる。

月島の成り立ち

月島は明治25年に隅田川河口を埋め立てて出来た街だ。当時の国策により重工業化が進むと、隣接する石川島造船所に関連する鉄工所や機械工場が集まり、さらに隅田川や運河沿いには海運業や倉庫が立地したため、多くの労働者が流入して住宅地となった。

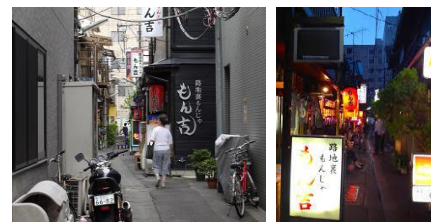
街区の大きさは工場や倉庫の敷地規模に適していたが宅地には大きすぎるため、さらに街区の長辺方向を6つに分割して短冊状になった敷地割りに長屋が密集することで路地の街となって、現在も下町情緒を醸している。



路地と長屋の街 月島の街区割り

探す楽しみ：路地の街の もんじゃラビリンス

かつて駄菓子屋があった路地空間にも「もんじゃ店」が進出し始め、メインストリートに軒を連ねる「もんじゃ店」と相まって、わざわざ路地の奥まで彷徨って発見する「もんじゃ」の楽しみ方など、下町の「路地散策」とB級グルメの「もんじゃ」との親和性が相まって多くの来訪者を呼び込む、まさに、もんじゃラビリンスの体をなしている。



組織の発足：集積が新たな集積を生み出す

メインストリートとなる商店街・西仲通りは、かつては多種多様な業態の個店が軒を連ねていたが、現在は店主の高齢化、跡継ぎ問題などで廃業・転業する所が次々に「もんじゃ店」に変わり始めると、もんじゃで地域振興を行う「月島もんじゃ振興会協同組合」が発足して月島もんじゃのブランド化に拍車がかかった。

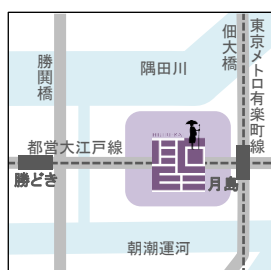
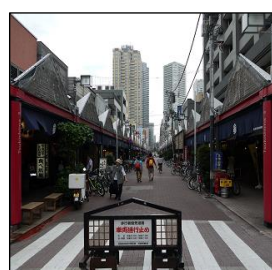


作る楽しみ：もんじゃ焼は体験型フード

「もんじゃ焼」は生地が水っぽい状態、そのまま鉄板にのせると生地が全体に広がってしまう。そこで、まずは具材でドーナツ状の土手を作ったところに生地を流し込むといった、焼き方にもちょっとしたコツが要するため、それ自体がアトラクションとして楽しめる体験型フードである。



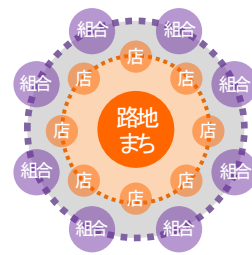
《聖地訪問ガイド》



Check!

『聖地』の構成要素

- ご本尊 : ● 下町情緒のある路地のまち
- 信者 : ● もんじゃ店
(転業等による新規店)
- とりまき : ● 月島もんじゃ振興会
協同組合



まだまだあるで こんな聖地

境港市は、言わずと知れた妖怪の聖地。水木しげるロードには130体以上のブロンズ像が飾られ、第1回世界妖怪会議も開催された。その中でも最強の妖怪はやっぱり「水木しげる」翁。これに嵌ると、抜けられなくなります。覚悟してください。（大津市・松本猛秀）

10の聖地が教えてくれた

都市の『聖地』づくり

10の聖地を訪れながら『聖地』をつくることへ思いを巡らせる中で、私たちは、[ご本尊]—[信者]—[とりまき]によって成り立つ『聖地』（P.5参照）をつくるために必要な3つのステップと、各ステップを確実に積み上げていくための7つの極意に辿り着いた。

『聖地』づくりの3つのステップ



- ステップ1
ご本尊としてのポテンシャルを見出す
- ステップ2
信者を増やす仕掛けをつくる
- ステップ3
あやかろうとするとりまきを支援する

い

めんどくさいを 価値に変えよ

まわりくどい過程もアクセスの悪さも、そのまちならではの正しい作法であると考え。それを正当化させるような「ありがたい」ストーリーを組み立てて。

- この極意を活かすステップ：1
- この極意を教えてくれた巡礼の旅

壹貳参肆伍陸漆捌玖拾



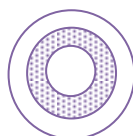
に

体験を通して 「ありがたい」 をシェアせよ

コアな信者になる道のりの遠さを示しつつも、その道の入り口はわかりやすく。作法をわかりやすくかみ砕き、一見さんでも「ありがたい」を体験できる機会を。

- この極意を活かすステップ：2
- この極意を教えてくれた巡礼の旅

壹貳参肆伍陸漆捌玖拾



ほ

あやかりの二重構造により『聖地』 を拡大せよ

ご本尊と信者の関係性が強いものであれば、そこにあやかろうとするとりまきが現れる。その『聖地』の2層目形成の動きを味方につけるようなまちの成長シナリオを考えて。

- この極意を活かすステップ：3
- この極意を教えてくれた巡礼の旅

壹貳参肆伍陸漆捌玖拾



7 っの極意



ろ

誰かに話したくなる逸話を探せ

ささいな物語であっても、今に通じるリアリティがあれば誰にとっても自分ごとになる。想像による物語の拡張、愛されるキャラクターの設定など、多少の演出でより普遍的な物語に。

- この極意を活かすステップ：1
- この極意を教えてくれた巡礼の旅

壱貳参肆伍陸漆捌玖拾



は

クセのある人の動きを注視せよ

何か強く信じるものがある人は、独特のアンテナに従い行動を起こすもの。個性ある人が集まるような動きがあれば、そこにニッチな『聖地』が存在する可能性を探ろう。

- この極意を活かすステップ：1
- この極意を教えてくれた巡礼の旅

壱貳参肆伍陸漆捌玖拾



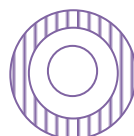
へ

ご本尊と信者へのリスペクトをまちの掟にせよ

とりまきは自由な発想でご本尊や信者を利用して構わないが、あくまで「2層目」に徹するべし。ご本尊と信者の関係性に悪影響を及ぼすようなら、まちとして排除して。

- この極意を活かすステップ：3
- この極意を教えてくれた巡礼の旅

壱貳参肆伍陸漆捌玖拾



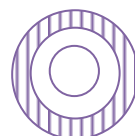
と

まちの有力者から『聖地』にお墨付きを与えよ

とりまきが新参者でも、まちで一目置かれる人から認められればステイタスが生まれる。寺や神社、学校、地元企業、不動産屋など、皆で『聖地』を盛り立てる輪を広げよう。

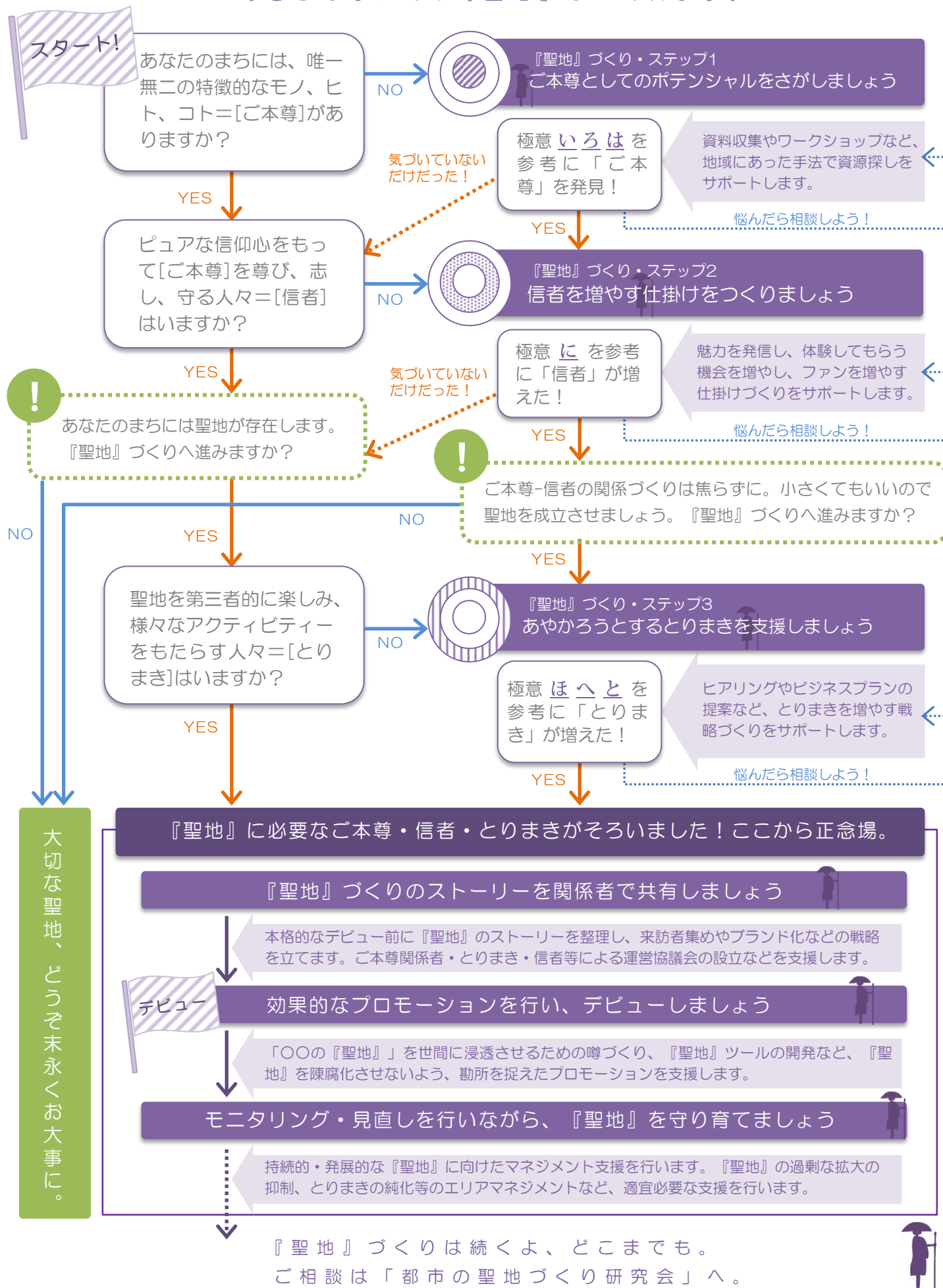
- この極意を活かすステップ：3
- この極意を教えてくれた巡礼の旅

壱貳参肆伍陸漆捌玖拾



『聖地』をつくろう！YES/NOチャート

あきらめないで！『聖地』はつくれます。



みなさまと共に旅を続ける「都市の聖地づくり研究会」

立ち上げ当初から「旅する研究会」を標榜し、フィールドワークに重点を置いてきた。一連の聖地巡礼ツアーでは、研究会のメンバーが持ち回りで企画・ガイドを担当。旅から戻ってはそこで学んだ『聖地』づくりの極意について議論。そしてまた再び旅に出ることの繰り返し。

ふと気づけば、旅を始めてから早4年。『聖地』は想像していた通りに掴みどころがなく、議論は想像していた以上に回り道をしたが、今回この冊子をまとめることで一応の区切りとなる。とは言え、まだまだ旅は道半ば。これから実際に『聖地』づくりに関わりながら、旅の最終章に踏み込んでいきたい。

《研究会のメンバー》

海口晴彦	アルメック V P I
大前 琢	かんこう
小畑沙梨花	大日本コンサルタント
栗山純子	安井建築設計事務所
坂井信行	地域計画建築研究所
杉野卓史	安井建築設計事務所
杉原五郎	地域計画建築研究所
高橋彩人	パシフィックコンサルタンツ
田中良明	ワークシップ
寺岸 歩	アール・アイ・エー
中井翔太	地域計画建築研究所
西村奈弓	市浦ハウジング&プランニング
野谷将準	オリエンタルコンサルタンツ
野村はな	ヘッズ
畠中誠司	パシフィックコンサルタンツ
藤井一成	アール・アイ・エー
坊内裕史	オオバ
松本猛秀	片平新日本技研
宮川由子	パシフィックコンサルタンツ
森田恭平	市浦ハウジング&プランニング
安野 淳	オオバ

《お問合せ先》

一般社団法人都市計画コンサルタント協会
まちづくり技術交流部会関西／都市の聖地づくり研究会
E-mail : TC_machi_kansai@googlegroups.com



あやかろう。

